

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。次に、採取した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、論文を作成していきます。同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	各自、テーマを見つけて修士論文を書きあげることができる。						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について 第3回 研究倫理について2 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジュメ、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジュメ、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前に渡された資料を読んでくる。（学習時間90分） 発表が当たっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。（学習時間120分） それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文70% 口頭試問30%						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

履修上の注意	
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ508A
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	阪神の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	日本的風景について考えることを通じて、相対的な物の見方が獲得できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「俳枕」とは 第3回 神戸の風景 第4回 神戸東部 第5回 神戸西部 第6回 兵庫県の風景 第7回 兵庫県北部 第8回 兵庫県南部 第9回 大阪の風景 第10回 大阪中央部 第11回 大阪北部 第12回 大阪南部 第13回 浪華の風景 第14回 神戸と大阪 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%、レポート30%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ508B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	京阪奈の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。前期に引き続き、歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	日本的風景について考えることを通じて、相対的な物の見方が獲得できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 淀川下り 第3回 京都の風景 第4回 洛北 第5回 洛中 第6回 洛南 第7回 京都県北部 第8回 京都県南部 第9回 奈良の風景 第10回 奈良中央部 第11回 奈良北部 第12回 奈良南部 第13回 平城京と平安京 第14回 日本的風景 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を、より深く学ぶことが肝要。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%、レポート30%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の地域言語に関する研究						
授業の概要	この授業では、日本語の地域言語（いわゆる方言）に関する研究を行う。 前期では、調査内容を決定し、調査方法と調査項目の選定を行う。 そのために、先行研究を読み、かつこれまでの調査結果を見た上で、そこから出てくる疑問点に関する発展的な議論をして、より良い調査票づくりを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの的確な要約ができる。 ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができる。 ・調査目的に応じた調査項目の設定ができる。 ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができる。 						
授業計画	第1回 地域言語とその調査に関するガイダンス 第2回 先行研究の調べ方 第3回 これまでの調査結果 第4回 調査方法について 第5回 先行研究のまとめ：アクセント 第6回 先行研究のまとめ：文法 第7回 先行研究のまとめ：待遇表現 第8回 先行研究に対する議論 第9回 問題点と調査方法についての発表：アクセント 第10回 問題点と調査方法についての発表：文法 第11回 問題点と調査方法についての発表：待遇表現 第12回 調査票についての発表：アクセント 第13回 調査票についての発表：文法 第14回 調査票についての発表：待遇表現 第15回 調査票の最終案発表とまとめ ※8月初旬に方言調査を行う予定があるので、そこで一緒に調査することが望ましい。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：90分） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：90分）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（質疑などを含む）30%と発表20%、最終提出物（調査票）50%						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。 ※8月初旬に方言調査を行う予定があるので、そこで一緒に調査することが望ましい。 （スケジュールの都合上参加できない場合は応相談）						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	MJ510B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の地域言語に関する研究（分析編）						
授業の概要	この授業では、日本語の地域言語（いわゆる方言）に関する研究を行う。 後期では、前期で調査した結果の分析と発表に主眼を置く。 Excel上でデータをどう扱うかも含めて、進捗状況を報告しながら受講生どうしで議論を深めたい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データをExcel上で適切に扱える。 ・調査目的に即した分析と発表ができる。 ・分析内容を適切に文章化できる。 ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができる。 						
授業計画	第1回 地域言語の分析に関するガイダンス 第2回 分析に関連するExcelの機能 第3回 調査結果のまとめ方 第4回 分析の方法 第5回 これまでの調査結果（復習） 第6回 分析の方向性についての発表：アクセント 第7回 分析の方向性についての発表：文法 第8回 分析の方向性についての発表：待遇表現 第9回 分析の中間報告：アクセント 第10回 分析の中間報告：文法 第11回 分析の中間報告：待遇表現 第12回 分析結果発表：アクセント 第13回 分析結果発表：文法 第14回 分析結果発表：待遇表現 第15回 分析結果のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：90分） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：90分）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（質疑などを含む）30%と発表20%、最終提出物（レポート）50%						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ506A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の音韻および五十音圖の歴史						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	(1) 音圖史および日本語音韻史の大筋を掴む。 (2) 日本語歴史研究の基礎概念を理解する。 (3) 日本語文獻に關する書誌學的知識を得る。 (4) 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 (5) 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計畫、到達目標の説明 02: 「2. 現代の五十音圖」の講讀 03: 受講者による論文紹介: 明治以降の国語教育 04: 「3. 江戸時代の五十音圖」の講讀 05: 受講者による論文紹介: 國學と國學者 06: 「4. 中世の音圖」の講讀 07: 受講者による論文紹介: 五十音圖とその他の音圖との關係 08: 受講者による論文紹介: 「直音」「拗音」といふ概念の誕生 09: 「5. 平安時代の音圖」の講讀 10: 受講者による論文紹介: 悉曇學 11: 受講者による論文紹介: 明覺 12: 「6. 音圖の発生」の講讀 13: 受講者による論文紹介: 訓點資料 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟讀 (2) 論文讀解 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	論文紹介: 20點 質疑應答: 20點 試験: 60點 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	馬淵 和夫 (1993) 『五十音圖の話』、大修館書店						
参考書	樺島 忠夫 (1979) 『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版75)、岩波書店 沖森 卓也 (編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾 (2010) 『日本語史概説』、朝倉書店 高山 倫明ほか (2016) 『シリーズ日本語史1 音韻史』、岩波書店						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅡB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ506B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の形態類型						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	(1) 日本語の形態類型を知る。 (2) 言語形式を構成要素に分析する方法を身に付ける。 (3) 日本語学のガラバゴス性を知る。 (4) 學説が必ずしも定まっておらずであることを知る。 (5) 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 受講者と教員による解説: 1. 日本語の連辞的構成 03: 受講者と教員による解説: 2. 日本語動詞構造の形態類型論的位置づけ 04: 受講者と教員による解説: 3. 動詞述語語幹の構造 05: 言語の連辞性および範例性 06: 受講者と教員による解説: 4. 丁寧表現の構造と変化 07: 待遇表現形式の中で見る丁寧表現形式の特徴 08: 受講者と教員による解説: 5. サ四動詞音便語幹と後続形式 09: テ形動詞の連聲 10: 受講者と教員による解説: 6. 二段動詞の一段化と一段動詞の五段化 11: 動詞活用體系の變遷 12: 受講者と教員による解説: 7. 中古和文語の動詞派生接尾辞 -ツ-, -ヌ- 13: 日本語史の中で見る中古和文語動詞の特徴 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟讀 (2) 論文讀解 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	解説: 20点 質疑応答: 20点 試験: 60点 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	丹羽 一彌ほか (2012) 『日本語はどのような膠着語か: 用言複合体の研究』、笠間書院 絶版につき、Kindle版を購入すること。						
参考書	宮岡 伯人 (2002) 『語とは何か エスキモ一語から日本語をみる』、三省堂 丹羽 一彌 (2005) 『日本語動詞述語の構造』、笠間書院						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 擬人のメタファー1 形状の類似性によるメタファー 第3回 擬人のメタファー2 動物と動き 第4回 線と移動のメタファー1 事象構造メタファー 第5回 線と移動のメタファー2 日本語の《活動は移動》メタファー 第6回 因果のメタファー 第7回 現実のメタファー1 現実のメタファー表現 第8回 現実のメタファー2 理想のメタファー表現 第9回 現実のメタファー3 理想と現実のメタファーにおける日英比較 第10回 可能性のメタファー 第11回 希望のメタファー 第12回 問題のメタファー 第13回 善悪のメタファー 第14回 関係性のメタファー 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（学習時間120分） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（学習時間180分）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 認知言語学1 メタファー 第3回 認知言語学2 メタファーとメトニミーおよびシネクドキ 第4回 認知言語学3 メタファーとアナロジー 第5回 認知言語学4 イメージスキーマ 第6回 認知言語学5 カテゴリー化 第7回 認知メタファー1 多義 第8回 認知メタファー2 写像 第9回 認知メタファー理論の変遷 第10回 身体メタファー1 知覚レベルと概念レベル 第11回 身体メタファー2 イメージ・スキーマとオンドロジ・スキーマ 第12回 身体メタファー3 評価性 第13回 身体メタファー4 同音異議と多義 第14回 プライマリー・メタファー 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（学習時間120分） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（学習時間180分）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IA／国文学演習IA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ503A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に閲覧し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	調査対象にした書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。 調査対象にした書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。						
授業計画	第1回 図書館所蔵の貴重書について 第2回 『絵入源氏物語』の調査 第3回 『絵入源氏物語』についての考察 第4回 『絵入源氏物語』についてのまとめ 第5回 3種の『源氏物語かるた』の調査 第6回 『源氏物語かるた』①についての考察 第7回 『源氏物語かるた』②についての考察 第8回 『源氏物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『源氏物語かるた』についてのまとめ 第10回 『豆本源氏物語』の調査 第11回 『豆本源氏物語』についての考察 第12回 『豆本源氏物語』についてのまとめ 第13回 『絵入源氏小鏡』の調査 第14回 『絵入源氏小鏡』についての考察 第15回 『絵入源氏小鏡』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。 『源氏物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 演習の取り組み方 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IB／国文学演習IB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ503B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に閲覧し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	調査対象にした書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。 調査対象にした書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の絵巻・絵本資料についての講義 第2回 奈良絵本『伊勢物語』の調査 第3回 奈良絵本『伊勢物語』についての考察 第4回 奈良絵本『伊勢物語』についてのまとめ 第5回 3種の『伊勢物語かるた』の調査 第6回 『伊勢物語かるた』①についての考察 第7回 『伊勢物語かるた』②についての考察 第8回 『伊勢物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『伊勢物語かるた』についてのまとめ 第10回 『伊勢物語』版本の調査 第11回 『伊勢物語』版本についての考察 第12回 『伊勢物語』版本についてのまとめ 第13回 『伊勢物語』古注釈書の調査 第14回 『伊勢物語』古注釈書についての考察 第15回 『伊勢物語』古注釈書についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。 『伊勢物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 演習の取り組み方 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A/国文学史特殊講義A						
担当教員	三木 麻子					科目ナンバー	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学史の研究						
授業の概要	我が国の古典文学の基盤である和歌文学の史的展開について講義する。記紀歌謡や『万葉集』に始まり、『古今集』以下の勅撰和歌集の撰集、種々の私家集の編纂など、我が国の韻文の歴史を辿付ける。特に平安時代に興隆する勅撰集の歴史につれて展開する仮名文学の世界について、屏風歌や歌会、歌合などの和歌活動に注目する。また、平安時代後期から鎌倉時代の歌論の展開を通して、和歌文学の実態と理論の歴史について考察する。						
到達目標	和歌文学の成立や享受の様相を理解し、論じることができる。						
授業計画	第1回 記紀歌謡と万葉集 第2回 国風暗黒時代の和歌 第3回 勅撰集の歴史と私撰集 第4回 古今和歌集について 第5回 屏風歌について 第6回 歌合について 第7回 私家集について 第8回 後撰和歌集と拾遺和歌集について 第9回 平安初期の歌学 第10回 後拾遺集・千載集の仮名序 第11回 新古今和歌集について 第12回 新古今時代の歌合と歌論 第13回 二条・京極・冷泉家の分立について 第14回 鎌倉時代の勅撰和歌集について 第15回 室町時代の勅撰和歌集について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	業前準備学習：次回テーマについて指示したテキストの内容を予習すること（学習時間:90分）。 授業後学習：和歌文学史の流れが理解できるよう、指示した具体的な作品も読むようにすること（学習時間:90分）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート 80% 平常点 20% 各回提出のコメント（講義内容についての感想・質問）により評価する。						
履修上の注意	1. 講義資料を配付する。欠席の場合は、次回授業時に再配付する。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、定期試験の資格を失うものとする。						
教科書	『日本古典文学史』、乾安代ほか著、双文社出版、 ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B/国文学史特殊講義B						
担当教員	三木 麻子					科目ナンバ-	MJ505B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	散文学史の研究						
授業の概要	物語文学の史的展開について講義する。『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめとし、日本古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』などの特質を論じ、さらに歴史物語や擬古物語について検討する。また、評論のなかで物語などの散文学がどのように捉えられ、享受されてきたかを考察する。						
到達目標	物語文学の成立や享受の様相を理解し、論じることができる。						
授業計画	第1回 物語文学史の概観 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について (1) 歌物語の成立 第5回 伊勢物語について (2) 歌物語の享受 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について (1) 源氏物語の文体 第8回 源氏物語について (2) 後代への影響 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	業前準備学習：次回テーマについて指示したテキストの内容を予習すること(学習時間:90分)。 授業後学習：物語文学史の流れが理解できるよう、指示した具体的な作品も読むようにすること(学習時間:90分)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート 80% 平常点 20% 各回提出のコメント(講義内容についての感想・質問)により評価する。						
履修上の注意	1. 講義資料を配付する。欠席の場合は、次回授業時に再配付する。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、定期試験の資格を失うものとする。						
教科書	『日本古典文学史』、乾安代ほか著、双文社出版、 ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIA/国文学特殊講義IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近代詩						
授業の概要	日本近代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を問う。						
到達目標	近代詩を視座として日本近代文学の持つ意味を把握することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代詩とは？ 第3回 近世以前の詩 第4回 明治十年代の詩 導入 第5回 明治十年代の詩 応用とまとめ 第6回 明治二十年代の詩 導入 第7回 明治二十年代の詩 応用 第8回 明治二十年代の詩 まとめ 第9回 明治三十年代の詩 導入 第10回 明治三十年代の詩 応用 第11回 明治三十年代の詩 まとめ 第12回 明治四十年代の詩 導入 第13回 明治四十年代の詩 応用 第14回 明治四十年代の詩 まとめ 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%とレポート50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIB/国文学特殊講義IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近現代詩						
授業の概要	日本近現代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を真摯に問う。						
到達目標	近現代詩を視座として日本近現代文学の持つ意味を考えることができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 大正時代の詩 導入 第3回 大正時代の詩 応用 第4回 大正時代の詩 発展 第5回 昭和ひとけたの詩 導入 第6回 昭和ひとけたの詩 応用 第7回 昭和ひとけたの詩 発展 第8回 昭和十年代の詩 導入 第9回 昭和十年代の詩 応用 第10回 昭和十年代の詩 発展 第11回 昭和二十年代の詩 導入 第12回 昭和二十年代の詩 応用 第13回 昭和二十年代の詩 発展 第14回 昭和三十年以降の詩 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%とレポート50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	適宜、指示する。						